

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071501060		
法人名	社会福祉法人 東翔会		
事業所名	グループホーム ふぁみりえ		
所在地	福岡県大牟田市沖田町510番地 (電話) 0944-43-1223		
評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年3月27日	評価確定日	平成19年6月12日

【情報提供票より】(平成19年3月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27人
職員数	24人	常勤	20人, 非常勤 6人, 常勤換算 22.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋平屋(準耐火)造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~68,200 円	その他の経費(月額)	なし 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ なし 円
	または1日当たり		

(4) 利用者の概要 (平成19年3月10日現在)

利用者人数	26名	男性	4名	女性	22名
要介護1	7名	要介護2	7名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.7歳	最低	72歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東原整形外科病院	大田歯科医院
---------	----------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い敷地と四季の景色に恵まれた家庭的な事業所である。利用者の明るい笑顔からは、その人らしい日々の穏やかな暮らしが伺える。事業主・事業所長・全職員は福祉先進国のデンマークとの交流研修の知識を活かし、認知症ケアに高い理念と強い熱意で取り組んでいる。また地域・行政・社会への高齢者福祉の周知・浸透のため、福祉に造詣の深い国内外の知識人の講義・イベント・フォーラム等の招聘実行委員となり、常に市の福祉関係の核的存在な事業所である。認知症ケアの質の向上を目指し、徘徊ネットワーク模擬訓練の指揮をとる等、地域貢献と事業所のさらなる理念の実践に取り組んでおり、発展が大いに期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	安心して暮らせる介護と成年後見制度の活用の2項目の課題について、全職員で話し合って改善シートを作成し、一つひとつ改善に向けて取り組んでいる。取り組みの事実についての記録がある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価のねらいと目的・意義を再認識している。日頃気づきが十分でない個所と事柄へ意識・思いを新たにし、この機会を得てサービスケアの質の向上に繋がりたいと、一つひとつの自己評価項目を全職員で、何度も検討して取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議での討議内容は、地域との交流を通じた利用者の暮らしと職員の関わり方・防災時の訓練・緊急連絡網・地域の協力体制・様々な人に事業所をもっと知ってもらうこと等や外部評価での改善点を報告し、改善への取り組みを討議しモニターも兼ねてもらい、サービスの向上に活かす取り組みがある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族の訪問時には声かけをして利用者の近況を話したり、定期的に電話・お便り・メールを送信している。職員の異動時にはお知らせして、不安除去に努めている。金銭管理は出納簿を月毎にまとめて収支を家族に開示し、確認サインをもらっている。玄関横に意見箱を設置し、また家族会を開催して家族同士の意見交換の場を設け、出された要望・意見は全職員でミーティングし、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りには場所を提供し、地域の人たちと挨拶を交わして一緒に楽しんだりしている。公民館・老人会への参加や近隣の小学校の行事に出かけたり、地域清掃・公園清掃へ積極的に参加する等して、日常的に地域との交流に努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【1 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を全職員で話し合い、地域生活の継続支援と事業所と地域交流の強化を図り、グループホームのケアのあり方、役割、課題等を地域に発信し地域で支える町づくりに貢献したいとの思いでつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々ホーム長・管理者が全職員に理念について話し、共有している。職員採用時には必ず理念を伝えて理解してもらい、実施に向けて統一を図るよう取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りには場所を提供し、挨拶を交わして一緒に楽しんだりしている。公民館・老人会への参加や近隣の小学校の行事に出かけたり、地域清掃・公園清掃へ積極的に参加する等して、日常的に地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義・目的を全職員が理解している。全職員で自己評価を話し合い、日頃見逃していた個所・事柄への気づきに視点を向けてケアサービスを見直し、具体的な改善シートを用いて評価の機会を活かした取り組みがある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。地域との関係作りや評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かす取り組みがある。また、陶芸教室や食事会を実施する等し、和気藹々の中で打ち解けた意見が聞けるよう工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者と連携を取り合い、認知症ケアの推進役となっている。行政からの要請で日常的に研修・視察・ボランティアの場を提供し、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの職員を招き、制度について勉強会を実施して皆で話し合い、必要時には対応できるよう支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時には利用者の近況を伝え、定期的に電話・お便り・メールを送っている。何らかの変化時には、状況に応じてきめ細やかにお知らせしている。職員異動についても報告し、不安の除去に努めている。金銭管理は月毎に収支をまとめて家族に開示し、確認サインをもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催して家族の思いや意見を出し合ってもらったり、意見箱を設置して何でも言える雰囲気作り心掛けています。出された要望・意見は全職員でミーティングし、運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は可能な限り抑えているが、やむをえない場合はその時期や引継ぎに最善の努力をしている。急な応援に備えてユニット間の相互交流をして馴染みの関係づくりをし、代わる場合は利用者へのダメージを極力防ぐ配慮をしている。新人職員については、きちんと紹介している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	常に公平性を持ち、採用時には性別・年齢で排除せず、基本的人権を尊重して一人ひとりのキャリアに留意し、生き生きと働きながら社会参加や自己実現できるよう、人材育成に努め、個々が安心して働ける環境づくりを図っている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表・ホーム長・管理者は利用者に対する人権尊重を重んじ、研修会・セミナー参加の機会を常に図り、参加している。法人全体で人権・ノーマリゼーションを全職員に啓発し、同時に地域啓発にも力を入れる等、全職員が研修内容を共有している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・教育を重視し、新人研修は段階に応じて働きながらトレーニングし、事業所に徐々に馴染むよう職員を育てている。外部研修についても状況に応じた職員育成の取り組みがある。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との意見交換や勉強会を率先して行い、外部との交流を図っている。認知症ケア研究会活動を通してネットワークづくりをし、異職種の人も交えて、立体的な相互間のサービスの質の向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学してもらったり職員が利用者宅へ訪問したりと、体験利用や通いの期間を設け、利用者本人の負担を最小限になるよう努めながら、徐々に馴染めるよう家族と相談しながら工夫している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者個々の気持ちを大切にし共に笑い・共に泣き・時には共に腹を立て、常に人生の先輩として生活の知恵と技を教えてもらい、一対一でゆっくり話し合う中で、感謝の言葉を伝え、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中の些細な会話の一言一言に思いや希望が含まれていることの把握に努めている。利用者の様子を見てさり気なく意向を聞いて支援し、また分からない場合には勝手な判断をせず、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・理学療法士・作業療法士・医師・職員の意見を参考に聞きながら本人主体の思いや願いを最優先し、意見・アイデアを反映した介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回介護計画の見直しや評価を行っている。本人の状態に変化があった場合その都度随時ケアプランの見直しをしている。その際も十分に本人・家族・職員で話し合い現状に即したプランを立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用共同生活介護並びに共用型認知症対応型通所介護サービスや入居前の馴染み作りを目的とした体験利用等を、その時々々の本人や家族の状況、要望に応じて、柔軟な支援を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員・家族は本人の希望を尊重し、一人ひとりのかかりつけ医と連携を密にして状態を報告している。事業所はかかりつけ医との関係を築き、更に利用者や家族があらゆる選択肢を可能にできるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取り支援の指針を持ち、主治医・家族・職員の理解を働きかけ、契約時に重度化や終末期についての本人・家族の希望を聞いている。そのような時期になった時は家族・職員・主治医で繰り返し話し合い、確認書を交わし、本人らしい終末期を迎えられるよう全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの尊重について日々学習をし、全職員の意識化を図っている。排尿誘導時にも目立たないように、さり気なく支援している。更なる職員の意識向上を図り、職員は日々点検し、利用者のプライバシーの尊重や記録においても留意している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物・散歩等、一人ひとりの希望や体調に配慮しながら個別性の支援をしている。一人ひとりのペースを大切に利用者寄り添い、見守っている。職員側の決まりの時間で区切った支援はしないよう話し合い、その人らしい暮らしの支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と相談しながら決めるようにしている。畑でとれた新鮮な野菜を洗ったり切ったりと、利用者の持っている力を発揮してもらい、一緒に同じ物を同じテーブルで食べ、会話をしながら食事を楽しみ、後片付けも一緒に行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	年中いつでも本人の希望・習慣や好みに応じて入浴できるように支援している。入浴拒否の人には本人の好きな音楽を流したり、歌を歌う等して気分転換を図っている。一人ひとりの気持ちを大切に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫が得意な人には雑巾縫いを、書を書くのが好きな人には書を、畑仕事の得意な人には畑と、それぞれの得意分野を生活歴などから把握して生活の楽しみや出番作りをし、気晴らしができるよう支援している。また、職員はそれぞれに感謝の言葉を伝えている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所のスーパーへの買い物、公園への散歩や地域の行事イベントに参加、車でコンサートや小学校の発表会に出かけ、また近場の温泉や旅行に行く等、戸外に出かけられるよう積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、施錠していない。職員は利用者一人ひとりの習慣や日々の動きをしっかり把握している。センサーを設置と職員同士の声かけや細やかな見守りで安全面に注意し、自由に過ごせるよう取り組んでいる。全職員は鍵をかけることの弊害を熟知している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回消防署や地域の人の協力を得て、防災訓練を行っている。利用者が安全に避難できるよう連絡・避難経路など全職員が熟知している。毎月15日を防災の日と定め、防災への意識を全職員で確認しあっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事・水分の摂取量をチェック表に記入している。利用者の大まかな栄養食事を職員は把握しており、個々に合った食事を提供している。栄養バランス・メニューについては、管理栄養士の専門的な助言を定期的にもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・居間には季節の花が飾られ、廊下にはイベント参加の利用者の笑顔の写真がある。採光は柔らかく、テレビの音量は適切で気になる匂いも無く、生活感や季節感に居心地良く過ごせる共同空間が配慮している。ただ、浴室・物品置き場の清掃・清潔については、気になる点があった。	○	清掃会社が定期的に清掃に入るが、毎日の入浴があり、時間的に浴室の清掃は十分ではなかったのではと気づかれている。浴室清掃について改善シートを作成して全職員で改善に向けて取り組むとのことなので、今後に期待したい。
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に利用者宅を訪問し、馴染みの物や思い出の品等を持参されるよう話している。居室には仏壇・家族の写真・旅行の写真・植木鉢・ぬいぐるみ等、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※ は、重点項目。